

令和 5 年度 三島医療・病床懇話会における主な意見（概要）

開催日時：1月25日（木） 場所：大阪府茨木保健所 5階 第会議室

1 第8次大阪府医療計画に関する意見

○特になし

2 地域医療構想の推進に関する意見

【全体】

○2022年度に高度急性期の病床数が大きく増加し、急性期病床が大きく減少しているが、要因は何か。このような状況では、目指すべき方向性がわからない。

（事務局回答）

○高度急性期病床の大幅な増加と急性期病床の減少は、2022年度に大阪府で病床機能の報告基準を設定したことが影響していると考えられる。ただ、既存の病床内で機能分化を行う必要がある中、現状のデータ分析からは回復期病床がより不足しており、同機能への転換が第一に必要と考える。

○高度急性期と急性期を分けて評価する必要性を感じない。今後の評価にあたっては、高度急性期と急性期を併せて考えてもよいのではないか。

（事務局回答）

○本意見や国の検討状況も踏まえ、府における地域医療構想の進め方について検討していく。

【各病院の対応方針（病院プランにおける2025年に検討している病床機能等）】

（1）公立・公的病院

●第一東和会病院・東和会いばらき病院

（病院への意見）

・急性期病床への転換を希望する理由は十分理解できるが、地域の医療機関が納得できる過程が必要ではないか。

（事務局意見）

・昨年度、一部回復期に転換する前提で合意を得られた経緯がある。回復期がより不足している状況であるため、転換の検討に当たっては、回復期を第一にしていきたい。

●みどりヶ丘病院・茨木みどりヶ丘病院

(病院への意見)

- ・茨木市で医療を完結したいという思いは理解したが、茨木市民が高槻市内の病院に搬送されたとしても平等に対応している。茨木市と高槻市の医療機関数に格差はあるが、救急医療については二次医療圏で考えることが重要。
- ・茨木みどりヶ丘病院において急性期病床が増加し、茨木市誘致病院により急性期病床が整備されると茨木市の急性期病床が大幅に増えることになる。茨木市誘致病院事業の全体像が見えてこない、本計画への判断が難しい。
- ・病院の再編を希望する理由は十分理解できるが、地域の医療機関が納得できる過程が必要ではないか。

(病院の回答)

- ・今回の再編は高槻から茨木に約100床のみを移す計画で、病院移転計画ではないことは理解いただきたい。高槻でも引続き地域医療支援病院として地域貢献していきたい。

(2) その他、民間病院等

特になし。

【茨木市誘致病院誘致事業】

(意見)

- ・茨木市における医療体制や小児救急の充実を求めることは理解できるが、病床機能等、具体的な説明がなければ、全体像がわからない。
- ・茨木市、茨木保健所、大阪医科薬科大学と三島南病院とで協議し、データを示して説明いただきたい。

(茨木市の回答)

- ・誘致病院については、令和4年3月に基本構想を策定し、その後公募で事業者を募集し決定した経緯があり、みどりヶ丘病院の再編と並行して進めているものではない。
- ・基本協定もまだ締結しておらず、物価高騰などを踏まえ見直しについても検討している状況。

【保健医療協議会において対応方針について説明を依頼する病院】

●第一東和会病院・東和会いばらき病院

※現在の病院プランのままであれば説明が必要。昨年度合意された内容に戻す場合は説明不要。

●みどりヶ丘病院・茨木みどりヶ丘病院

●その他意見（茨木市誘致病院誘致事業について）

みどりヶ丘病院・茨木みどりヶ丘病院の再編の協議もあるので、茨木市誘致病院誘致事業について、茨木市・大阪医科薬科大学に対し、保健医療協議会において説明を求めるべき。

【重点支援区域の申請（申請しないことについて）】

特になし。

【病床機能再編支援事業申請医療機関】

特になし（申請医療機関なし）。